

第 210 回 防災まちづくり談義の会 開催報告

「楽しい防災コンテンツ発表交流会」

日時	2026 年 1 月 22 日 (木) 15:00~16:45 (定例会 13:30~14:45)	
会場	関内ホール地下 横浜市青少年育成センター 第一研修室	
主催	防災塾・だるま 司会進行：中根圭介 理事	

写真1 会場の様子 (発表交流会)

防災塾・だるまの会員が、地域・職場・学校・マンション等で取り組む実践や研究、教材・ツールを持ち寄り、「楽しく・ためになる」形で共有し、意見交換する年に一度の交流企画として開催しました。デモ展示も交え、各発表に対して具体的な質疑が行われました。

防災塾・だるま会員のすごさと、裾野の広さを感じられる交流会でした。年に一度開催して、会員の学び合いと交流の場にしていきたいと思えます。(塾長)

プログラム

No.	発表者	発表テーマ
1	中根圭介	避難生活向けの生活用水浄化装置の紹介と実演
2	鷺山龍太郎	書籍概要紹介「「命を守る防災の教科書」防災立国の基礎知識
3	鈴木 幸一	「全国の避難所スタッフのスキルアップを目指して。」
4	落合 努	おべんとう箱立体地形模型の紹介
5	宮本 英治	小学校の防災授業の紹介
6	宮本 英治	業種ごとの災害時対応 (BCP)
7	原田 剛	市民トリアージと応急手当・止血法の資機材セットの備え



会場風景

発表1 中根圭介「避難生活向けの生活用水浄化装置の紹介と実演」

プロフィール・講演要旨（フォーム回答より）

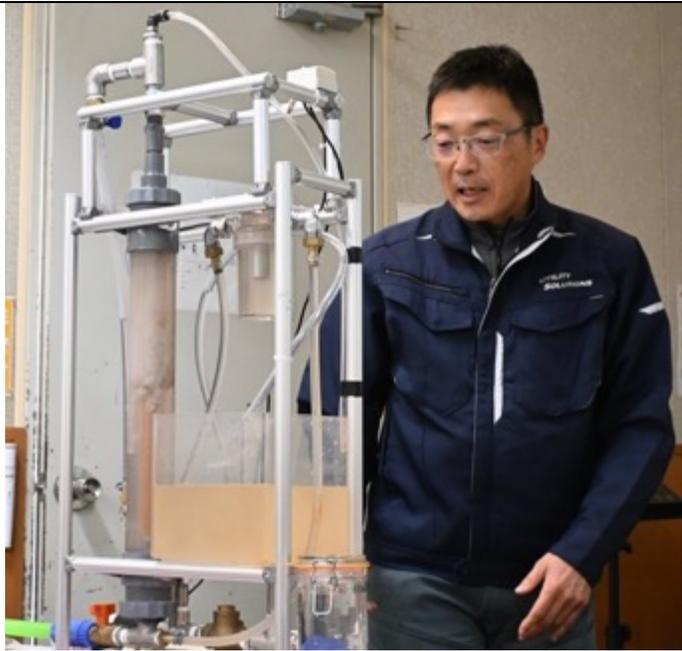
所属・経歴	ユーティリティ・ソリューションズ 水処理エンジニア、防災減災コンサルタント	
プロフィール	避難生活で多量に必要な生活用水を安価に供給できる浄水装置を開発。能登被災地でシャワー・洗濯・清掃等に給水した。生活用水の確保により感染症やストレスを減らし災害関連症の低減や復興の早期化を目指し活動中。	
講演要旨	非常用生活用水浄化装置の実機と、ろ過性能を実演で紹介します。また、生活用水の様々な利用方法も紹介します。	

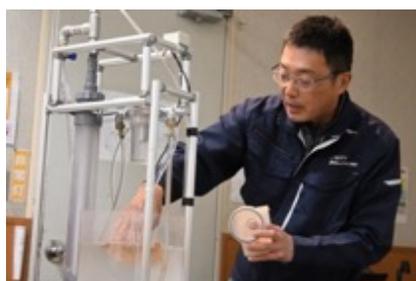
写真2 中根圭介氏（避難生活向けの生活用水浄化装置の紹介と実演）

会場で強調されたポイント

- 飲料水だけでなく、手洗い・洗濯・清掃などの『生活用水』が避難生活の衛生と健康を左右する。
- 装置の性能だけでなく、設置場所、運用手順、役割分担まで含めて『現場で回る仕組み』として整えることが重要。

質疑応答

質疑応答では、処理水量・処理速度、原水条件（濁度等）による性能差／フィルター等の消耗品、メンテナンス頻度とコスト／衛生管理（用途区分、管理者の育成、運用ルール）などについて具体的な質問・意見が交わされました。



「かながわ・よこはま防災減災体験フェア」での出展の様様

プロフィール・講演要旨（フォーム回答より）

所属・経歴	防災塾・だるま塾長	
プロフィール	1995年阪神・淡路大震災から地学教育、自宅マンション防災、学校長として地域学校連携を推進。退職後は各地で講演、防災イベント推進等。	
講演要旨	関東大震災から百年超。阪神淡路大震災から30年、東日本大震災からまもなく15年。この災害教訓からの防災基礎知識とはなにか。大人のリテラシー、学校で教員が教えるべきこと、社会の各組織で実践すべきことなど、その「防災基礎知識」を書籍案にまとめた。防災の国語、算数、理科、社会・・・その概要を発表させていただきます。	

「命を守る防災の教科書」解説

会場で強調されたポイント

- 災害教訓を『知って終わり』にせず、理解→行動→定着へつなぐ教材体系が必要。
- 学校教育（国語・算数・理科・社会等）と家庭・地域・組織の実践を一本の線で結ぶことを意識した構成。
- 小学生（低学年・高学年）向けの章立て・語彙調整を進め、現場の声を取り込む段階にある。



質疑応答

質疑応答では、低学年向けに『怖さ』を煽らず危険を伝える語り口／教科（総合・理科・社会等）との接続と授業設計の工夫／家庭・地域へ波及させる方法（宿題・地域連携）などについて具体的な質問・意見が交わされました。



はまみらいみんなフォーラム(2026. 1. 17 野島青少年センター)にて「命を守る防災の教科書」コンテンツ講座講師を務める斎藤雅史会員と、5年生の現地「子ども防災レンジャーズ」

発表3 鈴木 幸一「全国の避難所スタッフのスキルアップを目指して。」

プロフィール・講演要旨（フォーム回答より）

所属・経歴	「神奈川災害ボランティアステーション主宰」、「NPO 法人日本防災環境理事」、「ボーイスカウト」や「赤十字ボランティア」として「全国対象被災地支援活動」を展開。
プロフィール	ボーイスカウト仲間と共に「長崎県雲仙普賢岳」、「新潟中越地震」、「新潟中越沖地震」、「東日本大震災」等
講演要旨	横浜では震度5強以上の地震が発生すると459か所の避難所が開設されます。スマトラ沖地震時には鎌倉でも津波警報が発令され、住民や観光客は御成中学校へ避難しました。バスや電車は一時停止しましたが、警報が短時間だったため避難所の本格的な運営には至りませんでした。現在、市民の自助や避難所運営に関する知識やマニュアルは十分とはいえません。私は過去の避難所運営経験をもとに、「避難所開設・運営の手引き」を紹介します。



写真3 鈴木 幸一氏（「全国の避難所スタッフのスキルアップを目指して。」）

会場で強調されたポイント

- 避難所は『開設』よりも『運営』が勝負で、スタッフのスキルと段取りが生活の質を左右する。
- 実体験（被災地支援・避難所運営）を踏まえ、避難所開設・運営の手引きを紹介し、現場で使える形に落とし込む必要を強調。
- 市民の自助・共助の知識が不足している現状を踏まえ、平時からの学習と訓練の積み上げを提案。

質疑応答

質疑応答では、避難所運営の標準化に必要な最小要件と役割分担／マニュアルを『使える形』にするための訓練・更新方法／平時の人材育成（スタッフ・ボランティア）と連携体制などについて具体的な質問・意見が交わされました。



「かながわ・よこはま防災減災体験フェア—2025」での出展の様様

発表 4 落合 努「おべんとう箱立体地形模型の紹介」

プロフィール・講演要旨（フォーム回答より）

所属・経歴	神奈川大学	
プロフィール	荻本先生のもとで防災研究に従事	
講演要旨	安価で簡易に作成可能な立体模型（帝京大学、坪井先生考案）を紹介します。体験型で地形学習が可能なコンテンツとなります。	

写真 4 落合 努氏
(おべんとう箱立体地形模型の紹介)

会場で強調されたポイント

- 高価な機材がなくても、安価な材料で立体地形を『手で理解する』教材が作れる。
- 地形の成り立ちが分かると、ハザードマップの読み方や避難判断が具体化する。
- 模型づくりをゴールにせず、地域の地形・避難行動につながる問い（どこが危ない？どこへ逃げる？）を立てることが肝要。

質疑応答

質疑応答では、教材の材料・作り方、授業での所要時間と再現性／子どもが理解につまずく点と、説明のコツ／模型から避難判断へつなぐ問いの立て方などについて具体的な質問・意見が交わされました。



発表5 宮本 英治「小学校の防災授業の紹介」

プロフィール・講演要旨（フォーム回答より）

所属・経歴	自営業（元・地域安全学会事務局長）	
プロフィール	災害図上訓練DIGを活用して、地域防災、防災授業、企業や施設などの防災（BCP）の指導に長い間、関わってきた。	
講演要旨	2コマ（45分×2時限）の防災授業。怖い防災（避難）ではなく、9999日の大好きなわが町に起きる1日の災いに対して、自分だけでなく家族やペットも守り、災害後はみんなで助け合うことを学ぶ授業です。	

写真5 宮本 英治氏（小学校の防災授業の紹介）

会場で強調されたポイント

- 『怖い防災』ではなく、日常の延長で『自分・家族・ペットを守り、助け合う』視点を育てる授業設計。
- 45分×2コマで、気づき→判断→行動を体験的に学べる構成を提示。

質疑応答

質疑応答では、学年差への対応（低・中・高学年での調整）／評価のしかた（知識より行動・気づきの評価）／家庭での実践につなげる仕掛け（保護者巻き込み）などについて具体的な質問・意見が交わされました。

発表6 宮本 英治「業種ごとの災害時対応（BCP）」



写真6 宮本 英治氏（業種ごとの災害時対応（BCP））

プロフィール・講演要旨（フォーム回答より）

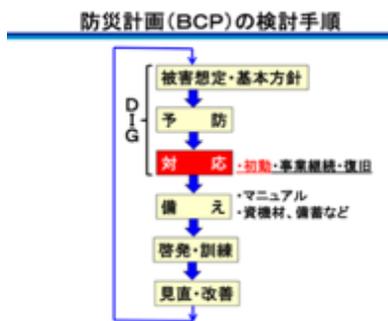
所属・経歴	自営業（元・地域安全学会事務局長）
プロフィール	災害図上訓練DIGを活用して、地域防災、防災授業、企業や施設などの防災（BCP）の指導に長い間、関わってきた。
講演要旨	過去の指導経験の基づいて、様々な業種の災害時対応（BCP）を紹介する。オフィスや店舗、工場、物流、建設、ホテル、幼稚園、各種学校、介護施設、病院などの災害時対応計画（BCP）の特徴について説明する。

会場で強調されたポイント

- BCPは書類ではなく『動ける段取り』。業種ごとのリスクと優先業務で設計が変わる。
- オフィス・店舗・工場・物流・医療介護など、現場の違いを踏まえた最小要件（初動・安否・連絡・継続）を整理する必要。

質疑応答

質疑応答では、小規模事業者が最初に整えるべき優先項目／行政計画・地域計画との接続（情報共有・支援）／訓練（机上・実動）で更新する運用の作り方などについて具体的な質問・意見が交わされました。



発表7 原田 剛「市民トリアージと応急手当・止血法の資機材セットの備え」

プロフィール・講演要旨（フォーム回答より）

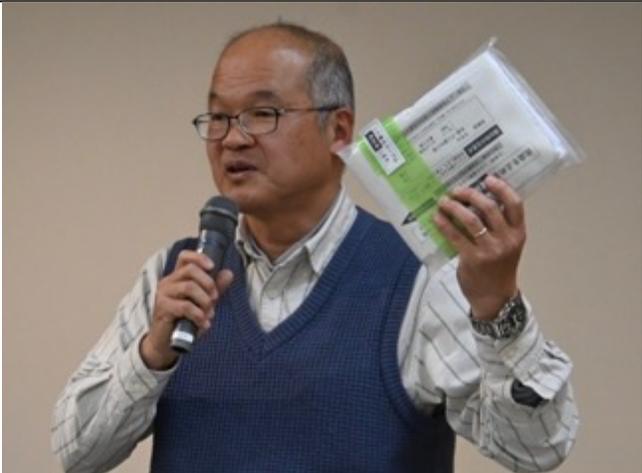
所属・経歴	QQ 防災クラブ 代表、千村台自主防災会 会長	
プロフィール	地元自主防災会の役員になったことがキッカケで防災活動をはじめました。防災まちづくり大賞の受賞をキッカケに近隣市町で活動をはじめ、テーマは発災直後の生き残れる備えについて啓発しています。	
講演要旨	昨年11月、神奈川県総合防災センターで学んだ内容をもとに、応急手当に必要な資機材セットを作成し、防災訓練で紹介しました。千村台自主防災会ではこれらのセットを救命ボックスに配備しています。また、市民トリアージについても講演で重要性を知り、今回紹介します。	

写真8 原田 剛氏（市民トリアージと応急手当・止血法の資機材セットの備え）

会場で強調されたポイント

- 発災直後は医療がすぐ届かない局面があり、市民ができる『止血・応急手当』の備えが生存率に直結する。
- 資機材は単品ではなくセット化することで、誰でも迅速に使える（救命ボックス等への配備）。
- 市民トリアージは『選別』ではなく、限られた資源で命を救うための優先順位づけとして理解し、平時から共有することが重要。

質疑応答

質疑応答では、セットに含める資機材の優先順位と更新（期限管理）／保管場所（救命ボックス等）と取り出しやすさ／講習・訓練の組み込み方（地域訓練での実演）などについて具体的な質問・意見が交わされました。

まとめ

生活用水、避難所運営、教育教材、BCP、情報発信、救護など、多様な実践が一堂に会し、互いの工夫がその場で磨かれる「だるまらしい学び合い」の時間となりました。今後も、現場に根ざしたコンテンツを持ち寄り、地域の安全・安心につながる形で育てていきます。（塾長）